



「学友会によるこそ」

学友会長 佐藤 昇

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

在校生の皆さん、充実した学生生活を送っていますか？

さて、私たち学友会は、大学生活をより豊かに彩る活動を支えています。その起源は古く、大正12年（1923年）に新潟医科大学学友会として結成され、大学教職員、学生、卒業生の皆さまの交流を目的としたスポーツ活動から始まりました。戦後の再建を経て、現在に至るまで100年以上にわたって活動を続けています。現在はスポーツ活動に止まらず、運動部と文化部合わせて30以上が活動しており、多くの学生が参加しています。また5月には同窓生を含む教職員と学生が参加する医学部大運動会が開催されており、コロナ禍での中断を経て復活したこの運動会は、学生・教職員・同窓生が一堂に会し、世代や立場の垣根を越えた貴重な交流の場となっています。これらの課外活動は、学生生活を豊かにし、様々な経験を積むことで人として大きく成長する機会となります。部活によっては他大学と日頃の成果を競い合う場を通して、合い互いに切磋琢磨することで、学内にとどまらない、全国各地に広がる貴重な交流の機会にも恵まれます。また大学から飛び出て、社会の方々と交流する機会となる活動もあります。同級生や先輩後輩との絆を深め、様々な異なる価値観を知り、理解することは、変化の激しいこれからの時代において特に重要になることでしょう。

大学における学生の最も重要なミッションは「学ぶこと」です。

しかし、「学ぶこと」は、医学の専門知識・技能、リベラル・アーツとしての教養といった大学の講義・実習のみを指すものではありません。医学部で育成される人材は、臨床医、医学研究者、医系技官など多岐にわたりますが、これらの全ての職種で、他者との「協力・協働」が不可欠となっています。

現代社会では、立場や背景が異なるメンバー間で生じる様々な問題を乗り越える力が求められます。そのため、皆さんは大学時代を通じて、単に学問を修めるだけでなく、他者とのコミュニケーション能力、協調・協働する姿勢とスキル、人間的な成長：他者を思いやる気持ち、社会性、倫理観などの資質を積極的に身につける必要があります。

学問を通じて知識・技能を習得するとともに、学友会活動を含む学生生活全体を通じてこれらの人間性を磨き、将来、多様な現場で活躍できる人材へと成長してください。

「学ぶこと」は短絡的に「教えてもらうこと」と考えがちですが、最初の段階はそうであっても、徐々に自ら問題に気づき解決を探ることを体得していくことが重要です。学友会での活動はまさに「教えてもらうこと」より、「問題を見出し解決する場」としても良い機会になります。学友会などの課外活動を通じて多くの仲間とともに様々なことにチャレンジし、実り多い学生生活を送ることを祈念いたします。



医学生としての学生生活

令和7年度学友会委員長 高橋 拓人

令和7年度学友会委員長を務めさせていただきました、医学科6年の高橋拓人です。

初めに、先生方をはじめ関係者の皆様におかれましては、日頃より大変お世話になっております。学業や部活動においては多大なるご支援を賜りましたこと、学生を代表して、心より御礼申し上げます。

次いで、新入生の皆さん、御入学おめでとうございます！厳しい受験戦争を勝ち抜いた皆さんを待っているのは、学びや出会いに満ちた濃い6年間です。新たな環境に期待と不安が入り混じっているかと思います。しかし、臆することなくやってみることに挑戦してみてください。この大学生活というのは、今しかできない貴重な経験を積む絶好の機会です。時間と体力がある内にしかできないことに、ぜひ挑戦してみてください。

そして在校生の皆さん、学生生活を存分に楽しんでいらっしゃいますでしょうか。授業や実習、アルバイト、研究活動、そして留学までしている方もいるかもしれません。大学生活では挑戦できることがたくさんあります。忙しい毎日を過ごしている方も多いかもしれませんが、限られた学生時代だからこそ、自分の好きなことに没頭し、またときには、新しいことにチャレンジすることが大切です。是非この学生時代に経験を積み重ねて、医師となるうえで確かな土台を築いていただければと思います。

さて、毎年この学友会誌の巻頭言では、歴代学友会委員長のありがたい話を紹介するのですが、私にはそのような話はなかなか難しいです。代わりに、これまでの学生生活を振り返りそこから何かを伝えられたらと思います。

私が入学した2021年はコロナ禍の真っ只中であり、せっきくの大学生活もり

モートばかりであり友達も作れず孤独なものでした。しかし、幸い部活動はできたのでゴルフ部の集まりには必ず参加していました。しかし、東医体は中止だったので部活中は漫然と過ごし、部活終わりによく宅飲みとかしていました。2年生になると医学部の洗礼が待っていました。膨大な知識を複数科目で暗記し、それを数日おきにテストし、一つでも単位を落とすと留年。そんな、極限の世界にも関わらず、追試前日にTikTokを見ていた友人には今でも引いています。3年生にもなると勉強の要領も掴め、少しゆとりのある生活ができるようになりました。部活の幹事をやったり、居酒屋バイトに挑戦してみたりと、勉強以外のことも頑張ってみました。4年生では、なんとといってもCBTとOSCEでした。特にCBTの点数は就職に直結すると聞いていたので必死でした。友達と勉強を教え合い、直前にもなれば一緒に朝イチから夜までカフェをハシゴして勉強したのは今となればいい思い出…かもしれません。5年生ではついに臨床実習が始まりました。今までの座学中心の勉強から一気にリアルな患者さんと向き合うことは、今までにない大きな刺激となり、より勉強に身が入るというものでした。実習は大変でしたが、班の仲間に恵まれとても充実していました。

ここまで自分語りをしてきましたが、振り返ってみれば、ごく平凡な学生生活でしたね。しかし、この平凡な生活は大学で出会った友人たちがいたからこそ送れたのだと、改めて思います。大学というのは今までとは比べものにならないほどのたくさんの出会いがあります。同期や先輩、そして先生方。その一つ一つの縁を大事にして欲しいです。決して楽ではない6年間。しかし、かけがえのない6年間。そんな6年間を大切な仲間たちと充実したものにしていってください。

あまりありがたい話は出来ませんでした。ここまで読んでいただきありがとうございました。要するに、友達たくさんつくろうね。という小学1年生で知っていることが伝われば嬉しいです。

最後になりましたが、このような私を1年間支えてくださった全ての方々に深く御礼申し上げます。今後とも学友会委員をよろしく願いたします。